

第66回さっぽろ雪まつり

世界遺産「春日大社・中門」が大雪像に 大通8丁目会場「雪のHTB広場」

「第66回さっぽろ雪まつり」では、奈良県にある世界遺産「春日大社」の^{ちゅうもん}中門が大通8丁目会場「雪のHTB広場」に登場します。

春日大社では、2015年から、第六十次^{しきねんぞうたい}式年造替が執り行われます。「式年造替」とは、20年に1度、御殿の建て替え、御神宝を新調する行事で、修繕を行うことで御神威の発揚を願うものです。新たな御殿が完成するのは、2016年11月。新調された春日大社をいち早く雪で表現しお披露目する場として、国内外に大きな発信力を持つさっぽろ雪まつりでの大雪像の制作が決まりました。

大雪像「春日大社・中門」は、ほぼ実物大の高さ11.5メートル、幅17.2メートル、奥行き9.3メートル。使用する雪の量は5tトラック400台分、およそ2000トン。「アイスブロック工法」と言われる独自の技術で作った101種、約1540個の細かいアイスブロックを貼り付けて制作します。

HTBと陸上自衛隊第11旅団第18普通科連隊の自衛官、のべ3500人が1月6日から2月3日まで29日間かけて制作にあたります。

昨年に続き、大雪像にプロジェクションマッピングを実施する予定です。

^{しきねんぞうたい}【式年造替とは…】

春日大社では年間2200回以上の祭りが行われていますが、中でも至高最上の式典が「式年造替」です。「式年造替」は「遷宮」のように神さまがお引越しされるのではなく、本殿の位置は変えずに建て替え、あるいは修復を行うもので創建以来ほぼ20年に一度行われてきました。

1200年以上、春日大社がその美しく荘厳な姿を保ち続けているのは「式年造替」が行われているからこそ。第六十次^{しきねんぞうたい}式年造替は、2015年3月の^{こづくりはじめしき}木作始式にはじまり、2016年11月の^{ほんでんせんざさい}「本殿遷座祭（新装の御本殿に神さまをお遷しする神事）」をもって完了となります。

【第66回さっぽろ雪まつり】2015年2月5日(木)～11日(水・祝)開催